

令和元年度 全国学力・学習状況調査結果の安来市の概要について

安来市教育委員会 学校教育課

平成31年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。

1 全国の状況

○本年度の調査は、小学校第6学年で国語、算数、中学校第3学年で国語、数学、英語を全児童生徒を対象として実施されました。（英語は、PCを使った5分程度の「話すこと」調査も実施しましたが、この結果は参考値のため公表されていません。）
 ○本年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、従来の「主として知識に関する問題」(A)と「主として活用に関する問題」(B)を見直し、「知識」と「活用」を一体的に問う出題形式となりました。
 ○平成29年度より、全体の平均正答率は整数値にて公表されています。よって、各教科における全体の結果については全国との差に誤差(四捨五入の関係による)が生じることから、表示はしておりません。

2 安来市の状況

(1)教科の概要

〈小学校6年生〉

国語:全体では、ほぼ全国平均で、昨年度よりも全国平均との差が大きく縮みました。
 ・「書くこと」は、昨年度から大きく改善が見られ、全国平均を上回りました。
 ・「読むこと」は、昨年度から改善が見られ、ほぼ全国平均になりました。
 ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」は、依然として全国平均との差があります。
 ・必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことや、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはよくできています。一方、漢字(同音異義語)を文の中で正しく使うことや、目的や意図に応じて、自分の考えを理由を明確にし、まとめて書くことに課題があります。

算数:全体として、すべての領域で全国平均より下回る状況でしたが、昨年度よりも差が縮みました。
 ・「図形」は、昨年度から大きく改善し、ほぼ全国平均になりました。
 ・「数と計算」、「量と測定」は、依然として全国との差があります。
 ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることや、台形について理解することはよくできています。一方、示された計算の仕方を解釈し、それを基に、別の計算の仕方を記述することや、示された図形の面積を求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がありました。

【国語】

国語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		62	62	63.8	
領域	話すこと・聞くこと	70.1	71.5	72.3	-2.2 △
	書くこと	57.0	55.4	54.5	2.5 ○
	読むこと	81.6	81.7	81.7	-0.1 △
	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	48.8	46.8	53.5	-4.7 ▲

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が
 +3ポイント以上を◎
 全国平均を上回り+3ポイント未満を○
 全国平均を下回り-3ポイントまでを△
 -3ポイント以下を▲
 で示しています。

【算数】

算数		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		64	65	66.6	
領域	数と計算	59.6	61.7	63.2	-3.6 ▲
	量と測定	49.4	50.0	52.9	-3.5 ▲
	図形	76.3	77.0	76.7	-0.4 △
	数量関係	66.0	66.8	68.3	-2.3 △

〈中学校3年生〉

国語:すべての領域で昨年度より伸び、全国平均を上回りました。

- ・「話すこと・聞くこと」は、全国を大きく上回りました。
- ・「書くこと」、「読むこと」は、全国を上回りました。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」は、全国並みでした。
- ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことや、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することはよくできています。一方、封筒の書き方を理解して書くことや、文の構造を捉え、問われていることがどこに書かれているかを理解することに課題があります。

数学:全体では、全国平均を下回る状況でしたが、改善のみられる領域もあり、全国平均との差は縮みました。

- ・「数と式」は、全国並みに改善されました。
- ・「図形」は、全国を下回りましたが、昨年度から大きく改善されました。
- ・「関数」、「資料の活用」は全国を下回り、課題が見られます。
- ・平行移動の意味や、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することはできています。一方、日常生活の事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

英語:全体は、全国平均並みでした。

- ・「読むこと」は、全国を上回りました。
- ・「聞くこと」、「書くこと」は、全国並みでした。
- ・短い英文の情報を性格に聞き取ることはおおむねできています。一方、与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書くことや、聞いて把握した内容について、自分の考えを書くという複数の領域を統合して活用することに課題があります。

【国語】

国語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		76	73	72.8	
領域	話すこと・聞くこと	75.5	71.5	70.2	5.3 ◎
	書くこと	85.9	83.0	82.6	3.3 ◎
	読むこと	75.3	72.4	72.2	3.1 ◎
	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	68.7	66.9	67.7	1.0 ○

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が+3ポイント以上を◎
 全国平均を上回り+3ポイント未満を○
 全国平均を下回り-3ポイントまでを△
 -3ポイント以下を▲
 で示しています。
 ※英語の「話すこと」は、参考値であり、全体の結果は公表されていません。

【数学】

数学		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		58	57	59.8	
領域	数と式	64.2	61.3	63.8	0.4 ○
	図形	71.4	71.2	72.4	-1.0 △
	関数	34.9	37.2	40.8	-5.9 ▲
	資料の活用	53.3	53.9	56.3	-3.0 ▲

【英語】

英語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		56	53	56.0	
領域	聞くこと	67.2	64.6	67.9	-0.7 △
	話すこと(参考値)				
	読むこと	57.9	54.6	55.6	2.3 ○
	書くこと	45.1	40.9	45.8	-0.7 △

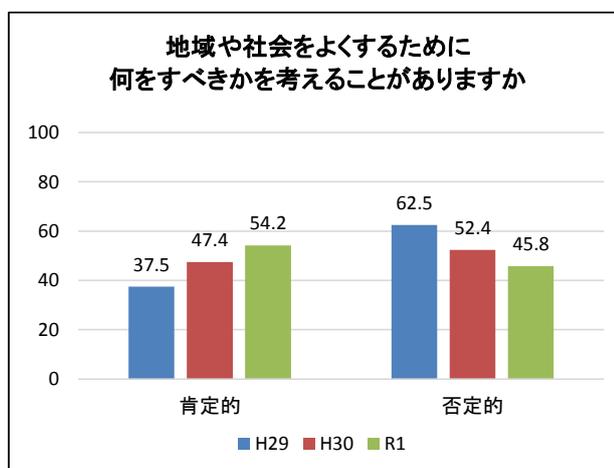
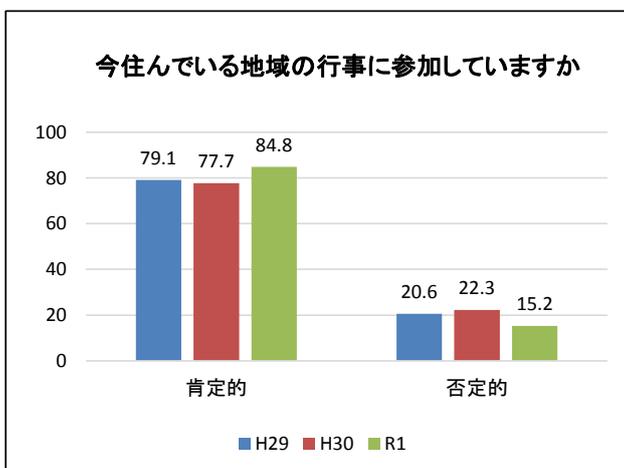
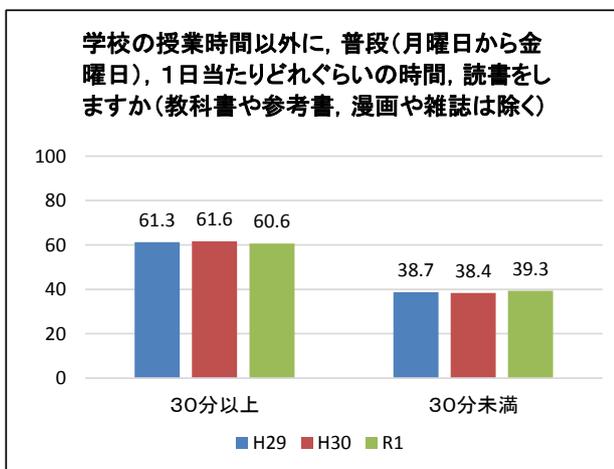
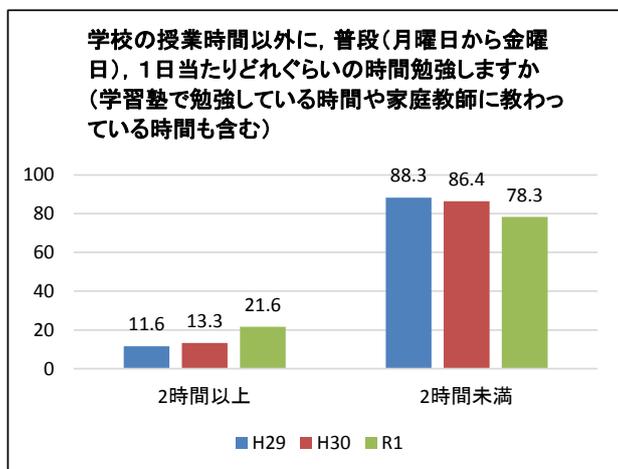
(2) 学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈小学校6年生〉

【全国と安来市との比較で特徴的な項目】(全国平均との差)

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの上位5項目)	
小 学 校	・今住んでいる地域の行事に参加していますか。(+16.8)
	・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。(+12.4)
	・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか。(+6.9)
	・国語の勉強は好きですか。(+5.5)
	・算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。(+5.1)
否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの下位5項目)	
小 学 校	・解答時間は十分でしたか。(国語)(-6.5)
	・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか。(-5.4)
	・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。(-5.1)
	・解答時間は十分でしたか。(算数)(-4.6)
	・読書は好きですか。(-3.4)

【地域・家庭に関わる項目】(過去3年の経年比較)



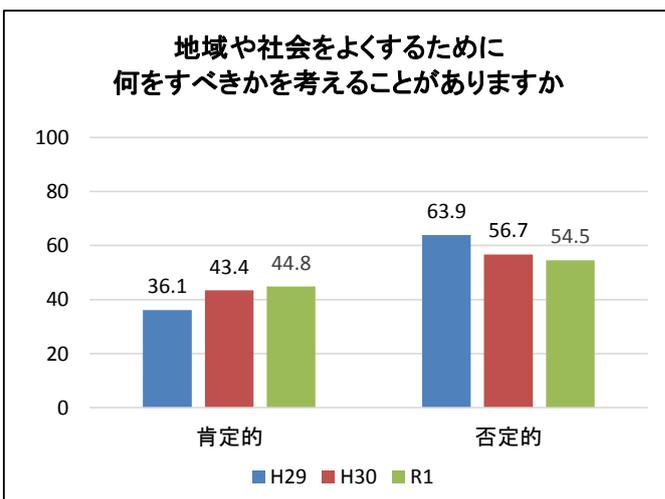
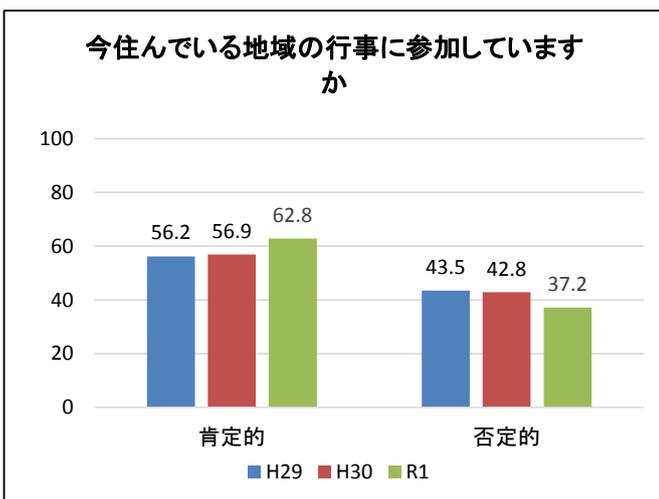
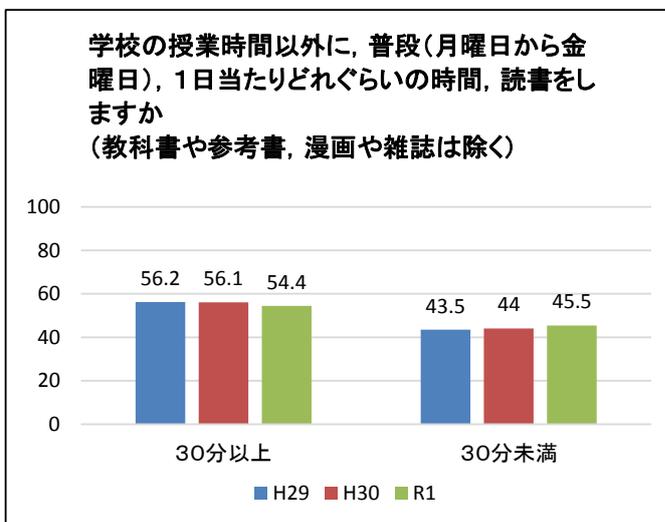
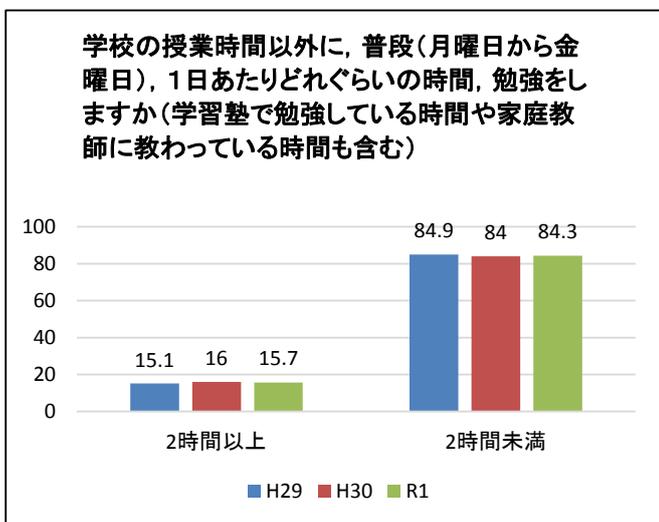
(2) 学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈中学校3年生〉

【全国と安来市との比較で特徴的な評価項目】(全国平均との差)

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
中 学 校	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。(＋18.3) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。(＋12.2) 国語の勉強は好きですか。(＋10.7) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。(＋9.1) 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか。(＋8.4)
	否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)
	<ul style="list-style-type: none"> 解答時間は十分でしたか。(数学)(－11.9) 解答時間は十分でしたか。(英語)(－10.1) 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。(－9.2) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。(－8.3) 将来の夢や目標を持っていますか。(－5.5)

【地域・家庭に関わる項目】(過去3年の経年比較)



3 結果を受けて

安来市の各小・中学校では、児童・生徒の学力向上を目指し、授業改善はもとより、授業時間以外でも様々な活動に取り組んでいます。安来市教育委員会としましては、全国学力・学習状況調査と島根県学力調査の結果を分析し、さらに学校訪問や各校の授業研究会などの取組の成果や課題を考察した上で、今後の各校の学力向上に向けた具体的な改善の取組を支援していきます。

また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要であることに鑑み、今後さらに学校と家庭とが連携する取組や保育所園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校が連携する取組を支援していきます。

〈学校で〉

○ どの教科においても、すべての児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることが大切です。理解できたという喜びは新たな学びへの原動力になります。個に応じたきめ細かな指導を充実させたり、補足的な学習を取り入れたりする必要があります。

また、思考力・判断力・表現力等を育成し、理解していること・できること(知識・技能)を活用していけるようにします。学校では、各教科の学びをつなぐ探求的・発展的な学習を取り入れたり、児童・生徒が互いに学び合ったりできるような授業実践を目指して、さらなる工夫・改善が望まれます。

このような学びにより、学ぶことに興味や関心をもち、自己の生き方の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の育成が期待されます。

○ 児童・生徒が主体的に、見通しをもって学習に取り組むために、授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示すこと、また、学習したことを整理し、理解の定着を図るために、授業の最後に学習内容を振り返る活動を行うことが必要です。

○ 学力調査において、課題の見られた設問について各校で分析し、該当の単元あるいは領域について授業改善に取り組んでください。学力調査の結果分析を改善策の策定に活かし、実践し、評価するPDCAサイクルを構築されることが望まれます。

その際、年度ごとにリセットされることのないよう次年度へ継続し改善を図ることが大切です。

○ 小・中学校が児童・生徒の学力や生活習慣における共通の課題を明確にし、9年間の内容を系統化し、継続して指導に当たることで、成果がより上がるものと考えられます。

○ 保護者と連携しながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に努める必要があります。

○ 地域の行事に参加する児童・生徒が多いことは本市の特色です。これまで各学校で取り組んできたふるさと教育の成果であると考えられます。児童・生徒質問紙の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目で、中学生が全国平均よりも肯定的な回答をしている割合が高く、地域と連携した取組や地域の行事などへの主体的な参加が、地域貢献の意欲を高める結果となっています。

今後も、児童・生徒が自ら地域と関わり、地域の課題を発見し、解決していく探求型の学習の中で継続されることが期待されます。

○ 図書館を利用する児童・生徒が多いことは本市の特色であり、これまで各学校で、司書教諭、学校司書を中心に読書活動の推進に取り組んできた成果であるといえます。

学校図書館の読書センター機能のみならず、学習センター、情報センター機能とし計画的に活用されることが望まれます。

〈家庭、地域で〉

◎家庭へのお願い

児童・生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

- 基本的な生活習慣を身につけさせましょう。
 - ・あいさつや食事、睡眠、起床時間など規則正しいリズムを身につけると、児童・生徒の本来持っている力が高まります。
- 家庭で主体的に学習する習慣を身につけさせましょう。
(各学校で配布されている家庭学習の手引きが参考になります。)
 - ・日々、家庭で学習すること(宿題や予習などの学習を大切にすること)は、基礎学力の定着や学力向上には不可欠です。学校では、授業と家庭学習をつなげた取組がなされています。
 - ・今年の調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、小・中学生ともに肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- 家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう。
 - ・学校での出来事や、テレビのニュース番組を見たり、新聞を読んだりして気づいたことなどを話しましょう。
(家庭で学校のことを家族と話し、社会に対する興味・関心の高い児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。)
- 日常生活の中で社会のルールやマナーを身につけさせましょう。
 - ・お手伝いを通して自分の役割の大切さを感じ、責任感をもつことができます。
 - ・思いやりの心や社会性などを育むことができます。
- 読書に親しむ経験を豊かにしましょう。
 - ・本に親しむ経験は、学習の基盤につながります。
 - ・家で読み聞かせをしたり、一緒に読書をしたりするなど、家庭での読書の機会をさらに増やしましょう。
- 地域の行事に積極的に参加したり、郷土の自然や文化にふれる体験をしたりしましょう。
 - ・ふるさとへの理解を深め、ふるさとを愛する心が育まれます。
 - ・地域の人との温かなふれ合いが、規範意識、コミュニケーション力、自尊感情を高めます。

◎地域の皆様へのお願い

「地域の行事に参加している」児童生徒が多いことは、本市の大きな強みと言えます。これは、本市で進めているふるさと教育に対して地域の皆様にご協力をいただいている賜物であると考えています。

ふるさと教育については、より充実したものになるように今後も取り組んでいきますので、引き続きご支援よろしくをお願いします。